

今月の主な内容

- 2面:【人物解体】
ミスキャン各務さん(京女大・4年)
- 7面:【震災特集】
- 10面:【関学、王座奪回 甲子園ボウル】

神戸大学ニュースネット

NEWS NET

©神戸大学ニュースネット委員会 <http://home.kobe-u.com/top/newsnet/index.html>
 関西学生報道連盟共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島3-21-9-502
 電話06-6307-1315 FA X06-6307-1316 メールnewsnet@kobe-u.com

しらすな会 現地サポートも万全!
 南紀サークル 合宿情報
 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町2525-4
 電話0120-53-1662
<http://www.shirasunakai.jp/>

1月号

「北米Week 2007」開催



8大学から一人ずつが参加した討論会の様子(11月13日・百年記念館六甲ホールで 撮影=塚本京平)

テーマは「持続可能な開発」

神戸大国際交流推進本部主催の「神戸大学 北米Week 2007」が11月11日から15日にかけて、百年記念館六甲ホールで開催された。「神戸大学Week」は、2002年の神戸大創立100周年を記念し、その翌年2003年から毎年行われている。5回目となる今年は、神戸市とアメリカ・シアトル市との姉妹都市提携50周年にちなみ、北米がテーマに、国際交流を通じて「持続可能な開発」の留学経験者を中心に日本と北米の交流について熱弁。日米間における大学の地位の違いや経済的な観点から今後の日米関係について論じた。講演後、神戸大の野上学長は「神戸大学は2015年には着実に進んでいる。早く北米に事務所を開設し、学生とOBがネットワークを構築出来るようにしたい」と話した。

植物資源の研究向上へ 大学初バイオセンター設立
 バイオマス(植物資源)に関する技術開発を行う研究機関を神戸大は、日本の大学で初めて10月1日に開設。12月15日に神戸大百年記念館六甲ホールで開所式が行われた。関西の大学と企業が連携し、「知」を集めて作る「研究機関」には、日本の植物資源に関する研究レベルが高まると期待されている。

バイオ燃料など、環境問題解決の糸口とされる植物資源。神戸大が10月1日に開設した「統合バイオリファイナリーセンター」では、草木、穀物などの資源から効率よくバイオ燃料などのエネルギーの元となる物質を取り出す技術、その物質を取り出しやすい植物に変える技術の開発を行う。他に、バイオ燃料の問題となっている、熱帯地域の無計画な伐採にも対応するべく、太陽さえあれば再生可能な植物の開発も行っている。また、同センターはこれらの研究成果を企業に提供することで実用化させることを視野に入れている。「目的を達成するには、

植物の農学、モノ作りの工学、理論の理学分野の協力が不可欠。神戸大はそれぞれができる環境にある」と話すのは、同センター設立に関わった神戸大大学院工学研究科の近藤明彦教授。また、関西にはバイオ分野の研究者が数多く、研究者間のネットワークを構築し、具現化するためにも、センターは設立されたという。

センターでは、神戸大の他に京大や阪大など関西の自然科学系の大学院に通う学生ら、民間企業の研究者らなどが研究を行い、情報

神戸の光を後世へ 光る募金箱で協力
 「光る募金箱」はただ光るだけではない。募金箱に入れた手を内側のカメラで撮影し、釣り針として画面に表示。手を出すと文字や

活動中も神戸大生がダンスに使用した電飾を着用。様々な人から「おもしろい」と反応があり、中には「伊藤春樹」

5000円を募金した人もいたという。

募金箱の作成に携わった阪大大学院情報科学研究科博士課程1年の田中宏平さんは「作成期間が短かった上、約600個の電飾を全て手作業で取り付けると細かい作業が大変だった」と作成中の苦労を語った。

今年の募金の総額は12月13日の時点で4795万円。昨年を大幅に上回っているものの、資金不足は否めない。「来年はもっと募金されるようなものを作りたい」と田中さん。彼らの活動もまた、神戸の光として輝いている。【伊藤春樹】

今度は元気返す 地域に根付く復興祭
 阪神・淡路大震災からの復興祭として始まった須磨元氣フェスティバルが11月18日、須磨海浜公園で行われた。今年で13回目。

祭りは近年チャリティイベントも行っている。震災のとき全園からもらった

と近藤教授は意気込んで界をリードしていきたい。【西田健悟】



ステージに登場した神大モダンチキ(11月18日・須磨海浜公園で 撮影=西田健悟)

観客魅了するあずみ 自劇の秋冬連続公演
 神戸大自由劇場による秋冬連続公演の第1弾「あずみ」(原作:小山ゆう、演出:大草俊人)が11月20日から11月24日にかけて

主演のあずみを演じた伊藤美奈さん(発進・2年)は「あずみの純粋なところを気をつけた」と10月から取り組んだ練習で注意した点を話した。また、公演を見に来ていた女子学生(発進・2年)は「演劇を見て初めて涙を流した」と熱演を讃えた。【中田一平】

は足湯体験を実施した。イベント会場で行うのは初めという。今年実際に被災地に赴いた安原希さん(文・2年)は「同じような体験に遭い乗り越えたので、被災者をほっとさせるのでは」と神戸の学生としての意義を話した。【大野将寛】

伏流水
 08年は十二支の一番目ねずみ年。十二支の順番にはこんな民話がある。語り継がれている。『神は十二支の順番を元日の朝、家の門の前に来た順番で決めることにした。牛は動きが遅いからと真先に出かけ、一番に着いた。しかし、門が開けられる時、牛の頭の上に乗っていた鼠が牛の前に飛び出たので、鼠が一番になった。』

からこのように民話が生まれたのだらうか。一方で、世界中で人気のキャラクターと言えは、あの耳の大きなネズミ。不吉の象徴であった動物が、夢の国のシンボルとは不思議な。キャラクターは実際の姿と、キャラクター化した姿とは受け取る印象が全違。就活でも外見や特徴を少し変更するだけで相手に対する印象は大きく変わる。ただし極端だと偽装になる。そこで「十二支には猫がいな

13日には国際学生討論会が行われた。テーマは「持続可能な開発のための私たちの役割」。日本とアメリカ、カナダの8大学から一人ずつがパネリストとして参加し、スピーチとディスカッションが行われた。ディスカッションでは、レジ袋をもう一つ使えとかという身近な議題から、アメリカの環境に対する取り組みは、ハフォー・マンスかなこという世界規模の議題まで討論。各パネリストが国を代表し、積極的に意見を交換し合った。【上村絵里】

天神祭 学友船中止へ 船渡御の雄姿見納め
 神戸大学学術事業会は10月26日、日本三大祭のひとつで毎年7月25日に行われる天神祭に船で参加していた神戸大学学友船の出船の終了を決定した。

学問の神様である天神様の前、国立大学法人となった神戸大の元気を対外的に示す役割を担ってきた

天神祭に参加。阪大、関西大も加わり、船上では三大学間でエール交換が行われるなど、大学間の交流にも役立っていた。しかし今年10月、船の労働者の高齢化に伴い奉拝船の数を削減することが決定され、出船料金が引き上げられることになった。そのため神戸大は経済的な理由により来年からの出船を中止することに決定した。

一週間、購読無料。
 この機会に新聞を
 読んでみませんか?
 いまなら一週間お試し
 キャンペーン実施中!

<http://www.asa-takaha.com>

朝日新聞ご購読のお申込みは
ASA 高羽
 ☎0120-084013
 神戸市灘区土山町1-13
 ※但し灘区内在住の方に限ります。

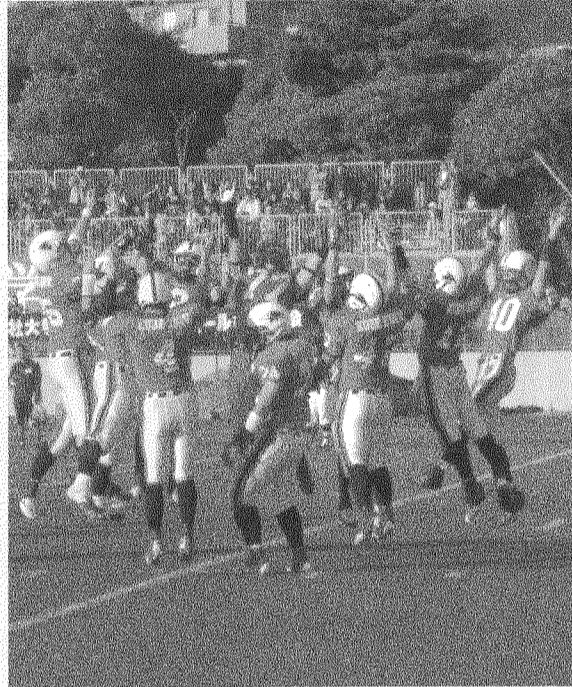
伏流水
 08年は十二支の一番目ねずみ年。十二支の順番にはこんな民話がある。語り継がれている。『神は十二支の順番を元日の朝、家の門の前に来た順番で決めることにした。牛は動きが遅いからと真先に出かけ、一番に着いた。しかし、門が開けられる時、牛の頭の上に乗っていた鼠が牛の前に飛び出たので、鼠が一番になった。』

アメフット 決めた、1部残留

「勝つしかなかった」 今季最終戦で同志社に勝利

41-7。龍谷大戦でついに今季初勝利を決めた。チームはこれまで5連敗。QB大原(経済・3年)はその責任を感じていた。しかしプレッシャーを跳ね除け、大原はついに爆発した。第1Q4分に先制し、今季最多の計6TDをたたき出した。大原は、前回の試合後から、弱点を矯正する練習を徹底。この試合では、OLの後ろでじっと我慢し、相手ディフェンスを十分に引きつけてからパスを繰り出し成功させた。優勝は遠いものになってしまった。僕ら4年生のできることはチームを1部に置いておくこと。僕は勝つためにやってきた」と寺坂主将は最終戦に向けて、力を込めた。

初勝利の勢いに乗って迎えた今季最終戦。相手は同志社。前節終了時点で神戸



同志社に勝利し、跳び上がるレイバンスの選手達(11月24日・王子スタジアムで撮影=仲田一平)

大、龍谷大が1勝5敗、同志社は1勝4敗1分で、同志社に敗れた時点で神戸大の入れ替え戦出場が確定する。「勝つしかなかった」と寺坂主将は話す。

同志社も負けは入れ替えて戦いが決まる試合。粘る同志社ディフェンスを翻弄し、ロスを取り返す。進化した司令塔の姿がそこにはあった。第3Q終了時点でスコアは24-7とリード。勝利は自明だった。しかし、同志社がそれでも攻め続ける。同志社QB多田の奮闘で、次々とTDを決め、ついに3点差に迫る。もうTDもFCさえも許せない。しかし同志社は勢いに乗り、エンドラインまで残り4ヤードまで迫る。残り50秒。今シーズン通して最大のピンチ。両チームの選手に大きなプレッシャーがかかる。プレーが始まり、オフェンスとディフェンスが入り乱れる。同志社QB多田の見せた瞬間の隙を見逃さなかった。DL荒谷(理・4年)がそのボールを奪い取った。荒谷がボールを高々と持ち上げたとき、神戸大スタンドが一気に沸いた。その歓声とともに試合は終了。神戸大は31-28で勝利し、リーグでの順位は6位となり、2部との入れ替え戦を何とか回避した。

試合後、寺坂主将は「4年間は短かったけど、この一年は本当につらかった。長い」とレイバンスでの4年間を感無量の表情で締めくくっていた。シーズン終了後、WR大園(発達・2年)は、関西学生アメフトリーグD1V1のベスト11に2年連続で選出され、捕球回数リーグトップとなり、2年連続で関西リーディングレシーバーの座を手に入れた。

【山田直矢】 平成19年度関西学生バスケットボールリーグ男子1部2部入れ替え戦が11月3日、五月山公園体育館で行われた。1部を11位で終えた神戸大は9部2位の大経大と対戦。神戸大が85-73で勝利した。関西の大学バスケット夢の舞台である1部の残留をかけて、神戸大にとって負けないといけない試合だった。第4Q残り20秒。66-69。神戸大は窮地に立たされていた。「救世主」となったのはガート堀江(理・3年)。残り14秒。ボールが堀江へ渡る。スリーポイントラインの外側から「なんとかして」(堀江)放った。【山田直矢】 かね、前後半で決着付かず。延長戦に入ると、1点を優位を目指して延二無二攻めるフォルサ。延長後半開始直々に堀玉を詰められるも、下を向くことなはずさ。フォルサポットへ。後半3分には大村(工・3年)が右クロスを決め、2年振りのシード権獲得を目指した神戸大は、序盤から好位置につける試合展開。6区で惜しくも逃げ切った。しかし試合終了まで残り18秒、痛恨の同点ゴールを決められ、ついに決勝の場はPK戦へ。「怖さとか緊張はなかった。決めてやるという気持ちだけ」。長く、苦しかった試合。5人目、大村のキックで優勝を決めた。「みんなの手に入れたタイトル(赤本主将)。全国への切符を分け、関西選手権に挑む。【深井友樹】 シュートは綺麗な弧を描き、ゴールの中へ。69-60。敗北への不安で静まり返っていた神戸大ベンチ、応援席が一斉に沸いた。試合の流れをつかんだ神戸大は、5分間の延長戦、一気に点差を広げ85-73で勝利した。「残留を達成することが難しいのは十分わかっている。今まで(の勝利)で一番嬉しい」と堀江。また夢の舞台で戦える。来年も部のテーマである選手が自由に考え、動く自由なバスケットで戦つつもりだ。【西田健徳】

リベンジならず準優勝

女子タッチフット東西王座決定戦

女子タッチフットボールの大学日本一を決める、東西王座決定戦が11月23日、王子スタジアムで行われた。初戦、関西1位のRO

OKSと文京学院大(関東2位)との準決勝では、村田(発達・4年)が3TDを決めるなど活躍を見せ得点差を広げる。後半からは続く第2試合、日本一を決める決勝戦はROOKS悲願の日本一への夢の前に立ちふさがる「王者」武庫川女大との雌雄を決する決戦となった。同点で迎えた第2Q終了間際、ROOKSのDF陣がTDを狙った相手選手の最後のパスをカット。攻撃権を取り戻し、前半最大の危機を脱したが

1年生も活躍し、34-18でROOKSが勝利。実力層の厚さともに差を見せつけたROOKSが決勝へと駒を進めた。

のままた試合終了。因縁のライバル相手にリベンジを果たすことは、ついにできなかった。大学日本一の座は再び「王者」武庫川女大に。阿部主将(発達・3年)が勝つてほしいと話している。試合となった高田(理・4年)も「自滅なので」と一言。昨

年の東西王座から始まったリベンジ物語は、同じ場所同じ舞台で終わった。それでも口を真一文字にしたが、一後輩たちは、自分たちが納得できるように、後悔しないように来年一年間取り組んで欲しいと高田は言葉を振り出した。すべての夢は後輩。新たな物語は今日の日から始まる。

男子ラグクロス

4年生が魅せた最終戦



関西学生ラグクロスリーグ男子第7戦(最終戦)神戸大-大阪大が11月10日、山城総合運動公園で行われ、神戸大が19-7で快勝。神戸大は通算2勝2

分3敗で1部リーグ4位。1部9部入れ替え戦を回避し、今シーズンを終えた。勝てば1部残留を決め4年生は引退、引き分け以下なら入れ替え戦に出場しない。

【梅本良恵】 関西学生ラグクロスリーグ男子第7戦(最終戦)神戸大-大阪大が11月10日、山城総合運動公園で行われ、神戸大が19-7で快勝。神戸大は通算2勝2

【大野将寛】 「勝つたり負けたりしただけ、それでラグクロスが嫌いになるわけじゃない。みんな大好きなスポーツをやれた」と4年間を振り返る主将の瞳はさすがに潤んでいた。

シード権獲得

びわ湖大学駅伝

第3回びわ湖大学駅伝(第67回関西大学対抗駅伝兼西日本大学招待・西浅井町・大津市まで8区間83.4キロ)が11月24日、滋賀県の琵琶湖周辺で行われ、2年振りのシード権獲得を目指した神戸大は、序盤から好位置につける試合展開。6区で惜しくも逃げ切った。しかし試合終了まで残り18秒、痛恨の同点ゴールを決められ、ついに決勝の場はPK戦へ。「怖さとか緊張はなかった。決めてやるという気持ちだけ」。長く、苦しかった試合。5人目、大村のキックで優勝を決めた。「みんなの手に入れたタイトル(赤本主将)。全国への切符を分け、関西選手権に挑む。【深井友樹】

フットサル

フォルサ、初制覇

全日兵庫県大会

第13回全日本フットサル選手権兵庫県大会決勝が、12月15日に北神戸田園スポーツ公園で行われた。神戸大フォルサは菅屋SCグリースに、PK戦の末に勝利(4-4、PK5-3)。大会初優勝を決めた。

【伊崎春樹】 優勝を決め選手らに駆け寄る小林(右)(12月15日、北神戸田園スポーツ公園で撮影=西田健徳)